



今日のトピック 新型コロナウイルスによるリスク回避でメキシコペソも下落

米国での感染ピークアウトを待つ展開に

ポイント1

パンデミックで金融市場混乱

原油急落も加わり市場は弱気相場へ

- 足元のメキシコペソは対ドル、対円ともに最安値を更新しました。前年末から2月中旬までは対米ドルでほぼ横ばいで推移していましたが、下旬以降大幅に下落し、3月16日現在、対米ドル、対円で前年末から各々▲17.3%、▲19.2%の下落率となっています。
- 新型コロナウイルスが米欧にも拡大し、パンデミック（感染症の世界的な大流行）となったことや、石油輸出国機構（OPEC）とロシアの減産協議決裂で原油価格が急落したことなど、不安材料が相次ぎました。
- 金融市場はセリング・クライマックス的なリスク回避の動きとなり、株式市場はベアマーケット（弱気相場）入りしました。先週の主要株価指数は高値からの下落率が2割を超え、資源国通貨や新興国通貨も売られています。

ポイント2

外貨準備高・対外債務などで脆弱な通貨は更なる下落も

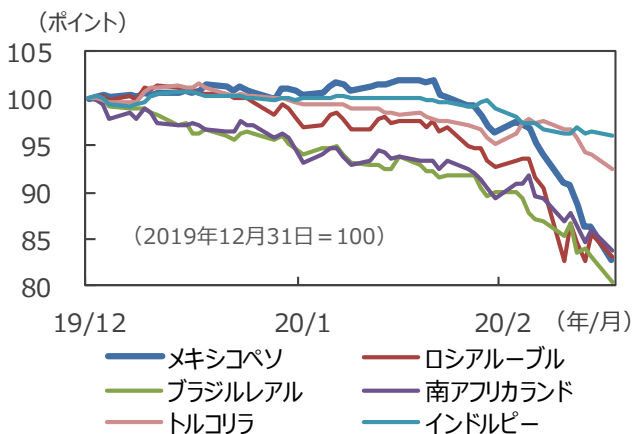
- 新興国では民間・政府部門ともに資本不足で海外依存度が高く、経常収支・財政収支の赤字を抱える傾向があります。その中で金融市場にショックが生じた際、対外債務の金額が大きい、外貨準備高が小さい国の通貨が売られやすくなります。

今後の展開

当面のペソは軟調予想も回復の反発力が期待される

- 新型コロナウイルスがいつピークアウトするかは予測しづらく、金融市場はしばらくの間、感染拡大と景気減速、各国の経済・金融対策を織り込みながらの不安定な状況が続くとみられます。そのような環境のもとでは資金が安全資産へ向かい、新興国通貨は売られやすい展開が予想されます。
- 一方で、米国で感染拡大にピークアウトの兆しがみられれば、リスク回避的な動きは急速に後退し、米国を最大の輸出相手国とするメキシコの通貨を押し上げる材料になると考えられます。また、メキシコは経常収支の赤字、対外債務残高の伸びとともに低下基調にあり、経済状況が他の新興国に比べ安定していることから、新興国通貨の中でペソの反発力が強まることが期待されます。

【対米ドルでの主な新興国通貨の推移】



(注) データは2019年12月31日～2020年3月16日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【主な国の外貨準備高と経常収支】

(%)	インド	ブラジル	メキシコ	南アフリカ	トルコ
外貨準備高(対外債務比)	76.6	67.2	38.9	28.8	20.9
経常収支(対GDP比)	▲ 2.0	▲ 1.2	▲ 1.2	▲ 3.1	▲ 0.6

(注) データは外貨準備高が2018年、経常収支は2019年。
(出所) 世界銀行、IMFのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ここもチェック!

2020年3月16日 先週のマーケットの振り返り (2020/3/9-3/13)
2020年3月13日 ベアマーケット入りした株式市場

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。